



# きら煌めく人々たち

## 「癒しの島の魅力を堪能してほしい」

木口宝光 さん (五和町二江・44歳)

五和町の通詞島周辺で、地元漁師がガイド役になり、魚釣りや釣った魚の調理、イルカウォッチングなどを楽しんでもらう「通詞島体験倶楽部」が7月19日にスタート。漁船で釣り客を漁場に案内し、釣りの方法などをアドバイスする遊漁船業などを営むかたわら、同倶楽部の実行委員会代表を務めている。

「最近、親が子を殺す、子が親を殺すという悲惨な事件が相次いでいる。親子が触れ合う機会をつくるのができないか」「遊漁船業のノウハウと通詞島の豊かな自然を生かして、地域の活性化を図れないか」と思ったことが、同倶楽部を始めたきっかけ。

「通詞島は人に安らぎを与える癒しの島なんです。多くの人に島の魅力を堪能してほしいですね」と微笑む。



▲炭切りの作業に汗を流す“ひま陣会”のメンバー

新和・碓石地区では昭和47年ごろまで、主な産業として木炭づくりが行われていました。この作り方を知っているのは、現在の70代以上の人たち。同地区振興会では、木炭生産の技術継承や環境美化などを目的に、60〜80代の有志による「ひま陣会」を結成し、昨年9月から木炭づくりに取り組んでいます。「ひま陣会」とは、「心のひま(ゆとり)を地域に提供する人たちの集まり」という意味を込めて命名。現在、15人で活動しています。

碓石地区振興会 (田中八十四会長)

木炭づくりを受け継ぎ、地域の活性化を



# ハッピーバースデー

1歳になります



本崎花音ちゃん

新和町小宮地  
平成19年9月14日生  
父・健太さん 母・美幸さん  
リズムにあわせて、ふりふりダンスをします。みんな大好き♡



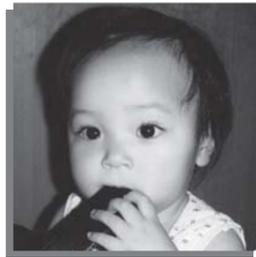
福部孔太くん

御所浦町御所浦  
平成19年9月25日生  
父・智一さん 母・菊美さん  
お兄ちゃんたち、これからもヨロシクね♡



黒田愛ちゃん

八幡町  
平成19年9月28日生  
父・賢三郎さん 母・美和さん  
じいじ、ばあばいつもありがと♡みんなに愛される人になるからね。



濱莉奈ちゃん

電場町亀川  
平成19年9月5日生  
父・栄助さん 母・文子さん  
人見知りしないので、みんなにかわいがられています。



小手苺ちゃん

東町  
平成19年9月25日生  
父・貴弘さん 母・美生さん  
たっくさんの愛情に包まれて、笑顔いっぱい幸せ者です♡



井戸みやびちゃん

天草町大江  
平成19年9月25日生  
父・栄造さん 母・育美さん  
輝耶お姉ちゃんには負けないよ!!

10月で満1歳になるお子さんを募集します!

- 応募期限=9月10日(※)まで(必着)。
- 応募方法=写真裏にお子さんの住所、氏名(ふりがな)、生年月日、性別、電話番号、コメント(30字以内)、保護者名(父・母)を記入し、〒

863-8631 (住所記載不要) 天草市役所秘書課へ郵送または持参してください。なお、写真はお子さんが大きく、鮮明に写っているものをお願いします。また、写真の掲載は6人まで(応募者多数の場合は抽選)とし、応募写真は返却しません。



河浦病院 院長 永吉 正和

## 病院局だより

河浦病院

河浦病院に勤務して6年半が経過しました。着任当初、病院給食に刺身が出されていたことには驚きました。また、ご飯もおいしく、調理係に聞くと「地産地消を心がけています」とのこと。「身土不二」「フードマイレージ」という食に関する言葉があります。身土不二は仏教用語で、山下惣一著『身土不二の探求』では、「人の命を支えているのは食べ物である。食べ物は土が育てる。従って土が人の命、命は土そのもの、すなわち身土不二、身と土は一体という考え方です」。

これからの「病む人へ思いやりと優しさ」という病院理念の下、食の安全や地球環境に配慮しながら、各病院・診療所との連携を深め、住民の皆様の健康を支える一端を担っていきたくと考えています。よろしくお願ひします。

輸入食料は、長距離輸送によるエネルギーの消費と二酸化炭素の排出を増大し、生産国の資源、環境にも悪影響を与え、地球環境の負荷になるとされています。この2つの言葉は詰まるところ地産地消、食の安全に行き着くようです。さて、河浦病院は昭和22年、一町田村診療所として発足し、同30年代には当時、猖獗を極めた結核病に対応するためのベッド86床を有したこともありました。その後、疾病の変遷と時代の流れの中で、現在は療養病棟を持つ一般病院として内科、小児科、外科、整形外科、リハビリテーション科を設置しています。